

3月25-28日に、静岡で開催される日本森林学会において、広葉樹林化プロジェクト参画者を中心に、「天然更新の成功をどう判断するか?」というテーマ別シンポジウムを行います。広葉樹林化プロでの成果もふまえ、上記テーマについて、議論を深めたいと思っています。多数、ご参集下さい。

<開催趣旨>

我が国では、地域施業計画・地域森林計画のもと、基本的に、森林が伐採された後は、必ず植林するか、天然更新によって、再び森林に戻ることが義務づけられている。天然更新を選択した場合には、伐採後何年かして、実際に天然更新が成功しているかを判断し、失敗している場合には更新の補助や植栽などの手段によって森林へと戻さなければならない。天然更新が完了しているかどうかを判断する基準は、天然更新完了基準と呼ばれ、成立している一定以上のサイズの稚樹の本数密度によって決められる例が多い。はたして、このような判断基準は、天然更新の成功を保証しているのだろうか?それぞれの事例で想定されている天然更新、およびその成功とはどういうことなのだろうか?

ブナ林を中心とした天然林の天然更新の技術開発研究が、拡大造林期後半に林業試験場を中心にすすめられ、そこで得られた成果が、現在使われている判断基準の作成のほとんど唯一の根拠として使われている。ただし、こうした過去の天然更新試験における天然更新の成功の判断の正否については、十分な検証が行われてきたとは言えない。試験後数十年を経て、ようやく近年検証研究が行われた結果、問題点を含め新しい情報が明らかになってきた。また、広葉樹天然林の生態学的研究からも、天然林での更新プロセスに関する知見が得られてきた。

現在、行き過ぎた人工林化への今後の対応の一つとして、広葉樹林化、混交林化というような施業が提唱されている。ここでも、天然更新の成功を担保するような判断基準が求められている。過去の更新試験研究の結果を再評価し、また新たな広葉樹天然林での研究成果も参照して、天然更新の成功を判断するとはどういうことか、また現状の中で判断基準を作るならどのようなものがよいのか、その運用にあたって注意すべきことはどんなことか、といった論点への認識を深めたい。

<プログラム>

T07 天然更新の成功をどう判断するか?

日時：平成23年3月27日（日）午前9時から

会場：静岡大学共通教育A棟H会場

9:00-9:15 田中浩（森林総合研究所）天然更新の成功をどう判断するか?

9:15-9:30 田内裕之（森林総合研究所四国支所）天然更新完了基準の問題点や考え方

9:30-9:45 杉田久志（森林総合研究所）ブナ天然更新の成功を判断する

9:45-10:00 森澤猛（森林総合研究所東北支所）ヒノキ天然更新の成功を判断する：三浦実験林木曾ヒノキ天然更新試験地の結果から

10:00-10:15 正木隆（森林総合研究所）何本稚樹があれば将来森林となるか

10:15-10:30 永松大（鳥取大学）照葉樹天然林における稚樹の成長

10:30- 総合討論